

第41回 地盤震動地域交流会（2024）

主催：日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

地盤震動小委員会では、日本建築学会大会時にその地域に根付いたご研究やご活動を紹介し、参加者の交流を深めることを目的として地域交流会を毎年開催してきました。今年度は関東地区にゆかりのある先生方に地質・地盤・地盤震動にかかわるご講演をして頂くこととなりました。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

日時 2024年8月29日（木） 17:15～18:50

会場 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1133室

https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html

プログラム

① 高橋雅紀先生（地質学者 元国立研究開発法人 産業技術総合研究所）

『山国誕生の謎』－東西圧縮の原因－ 17:20～18:05

2024年の元旦に能登半島地震が発生しました。日本海の東縁に沿っては、日本海中部地震(1983年)や新潟県中越地震(2004年)など、同様の内陸地震が頻発しています。その原因は、日本列島が東から強く押されているからです(東西圧縮)。この東西圧縮の原因は、地質学でも地球物理学でも何十年も解明することができず、ずっと謎でした。ところが、フィリピン海プレートの過去の運動を探っていたとき、偶然に東西圧縮の原因を解くことができたのです。そして、この東西圧縮によって日本列島は隆起し、世界有数の山国に成長したのです。講演では、途中で厚紙模型を組み立てながら、東西圧縮の原因を紐解いていきます。

② 林田拓己先生（国立研究開発法人 建築研究所 国際地震工学センター 主任研究員）

『ステイホーム』が常時微動に与えた影響とは？ 18:05～18:50

常時微動は、地盤の地震波速度構造や構造物の振動特性を調査する目的で広く活用されています。世界有数の過密都市である東京圏において、常時微動の「震源」は無数に存在すると考えられますが、どのような人間活動がどの周波数帯域の常時微動にどの程度寄与するのかを定量的に検証するまでには至っていません。2020年、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、世界中の都市でロックダウン等の政策が講じられ、日本においても3月の全国一斉休校に始まり、外出自粛要請や緊急事態宣言によって多くの人々が「ステイホーム」を強いられました。講演では、「ステイホーム」下の首都圏における常時微動の変化を首都圏の地震観測点170地点以上で測定された常時微動記録の分析により明らかにします。

参加費 無料 厚紙模型キットを先着70名様に配布いたします。

懇親会のお知らせ

交流会終了後に、恒例の懇親会を実施いたします（要事前申込み）。

詳細は、[こちら（クリック）](#)をご覧ください。

お問合せ先 鈴木晴彦（応用地質）

suzuki-haruhiko@oyonet.oyo.co.jpを@に変えてください

以上